

v コマンド（音量1）

〔書式〕

v<num>

音量を指定します（volume）。

設定可能範囲は 0 ～ 15 です（#V_STEP ヘッダ未使用時）。初期値は設定されていません。

V コマンド と同時には作用しません。v コマンド の値は MML コンパイラ内で計算され、内部的には V コマンド に置き換えられます。

OPM トラックの場合

- ・ #V_STEP ヘッダで設定可能範囲自体を変更できます。無指定時は 0 ～ 15 です。
- ・ 実行した瞬間にキャリアの TL が更新されるため、リリースの長い音色で v15c4v9r4 のようにするとリリース時に音量が変わります。

PSG トラックの場合

- ・ #V_STEP ヘッダを使用しても、設定可能範囲は 0 ～ 15 のままです。
- ・ 音量レジスタに直接反映する値での指定になります。

関連

#V_STEP ヘッダ, V コマンド, VOP コマンド

V コマンド（音量2）

〔書式〕

V<num>

音量を指定します（Volume）。

設定可能範囲は 0 ～ 127 です。初期値は 127 です。

OPM トラックの場合

- ・ v コマンド と同時には作用しません。
- ・ TL レジスタに直接反映する値での指定になります。
- ・ 実行した瞬間にキャリアの TL が更新されるため、リリースの長い音色で V125c4V105r4 のようにするとリリース時に音量が変わります。

PSG トラックの場合

- ・ 8 で割った値を音量レジスタへと反映します（v コマンド 相当）。

関連

v コマンド, VOP コマンド

v+ コマンド（相対音量アップ）

〔書式〕

v+<num>

音量を指定値ぶん、現在の値より大きくします。

設定可能範囲は v コマンド と同等で、省略時は vi コマンド での指定値となります（未指定時は 1 です）。

なお、加減算を重ねることはできません。「v+1+3」などはエラーとなります。

関連

v コマンド , vi コマンド , v- コマンド , VOP コマンド

v- コマンド（相対音量ダウン）

〔書式〕

v-<num>

音量を指定値ぶん、現在の値より小さくします。

設定可能範囲は v コマンド と同等で、省略時は vi コマンド での指定値となります（未指定時は 1 です）。

なお、加減算を重ねることはできません。「v-1+3」などはエラーとなります。

関連

v コマンド , vi コマンド , v+ コマンド , VOP コマンド